

(様式2)

平成14年度 次世代ITを活用した未来型教育研究事業報告(3回目)

1, 学校名 岐阜県吉城郡宮川村立宮川中学校

2, わかる授業、楽しい授業

技術家庭科・・・情報処理分野による取り組み

1年生

- ・情報に関わる著作権の基礎知識
- ・パソコンの扱い方(ファイルの保存など)
- ・ワープロソフト(ワード)を用いての文書作り
- ・文書内に写真や図形を取り込む

2年生

- ・インターネットからの情報の収集方法
- ・インターネット使用上の注意やマナー
- ・インターネットから得た情報をワードやエクセルでまとめる
- ・レポートとして見やすい(読みやすい)ものになるよう加工(書体や色の工夫)する。

3年生

- ・デジカメやスキャナーなどの周辺機器の活用
- ・いろいろなソフトを用いてパソコンの活用範囲を広げる
 - 1, 特製カレンダー作り
 - 2, 卒業アルバム(ビューワー入り)作り

総合的な学習・・・ベルギー研修に関わる取り組み

- ・訪問都市の下調べ(インターネット、百科事典など)
- ・海外旅行の基礎知識(インターネット)
- ・ベルギーの食品・・・料理、お菓子、飲み物

3, 実施時期

1年生	技術家庭科	1月～3月
2年生	技術家庭科	11月～2月
3年生	技術家庭科	10月～3月
2年生	ベルギー研修準備	2月～3月

4, 成果と課題

3学期は技術家庭科の授業(情報分野)での活用が中心になった。今年度の1年生は小学校でもパソコンを使う機会が多く、基本的な操作については分かっている生徒が多いので、ワープロ(ワード)を実際に活用する部分からスタートした。マニュアルを見ながらの習得よりも、最も基本的な内容のみ全員で確認し、あとは試行錯誤的にいろいろなツールを使用して作業を進めた。非能率的なようにも考えられるが、いろいろな技を見つけ出し、お互いに交流し合うことが、生徒にとってはゲーム的な要素とも捉えられ、楽しみながら学習できたようである。

パソコンを用いての学習を展開する中で特に感じることは、生徒自身が「何をしたいのか」を明確に持つことができるかが学習成立の前提条件であるということである。これまでもよく言われてきたことではあるが、パソコンそのものは単なる道具であり、使う目的があって初めて機能する。そのように考えると、IT教育はその前段階として創造性を育てる教育が成立している必要がある。ITを用いた教育が創造性を生みだすと言うような考え方もあるが、むしろいろいろな学習活動で生みだされた創造性の芽を大きく膨らませるために機能させる方がより有効であると考えられる。

